

# えがお 下越

第7号  
2011年8月発行

下越病院の理念 わたしたちは地域のみなさんとともにゆきとどいた医療・福祉の実現を目指します。

下越病院では、室料差額(差額ベッド代)はいただいております。



## 2011年度夏季全医師会議

7月2日(土)～3日(日)に咲花温泉『佐取館』で夏の全医師会議が行われました。

第一部は3月に起きた東日本大震災をテーマに、「東日本大震災への支援レポート」を参加した医師からの報告と「新潟で地震が起きたら我々はどうするか」と題した国土交通省の方の講演、沼垂診療所関川医師による新潟水俣病住民検診のまとめの報告がありました。

第二部では、今年度当院に帰任した外科の岩城医師と、新入職研修医の浅川医師、岩田医師の歓迎会が行われました。

第一部の「現地への支援レポート」では、まずDMATの隊長である循環器内科の末武医師からDMATの活動報告が行われました。震災直後の3日間の活動の様子と今回の震災の特徴について、また災害時の医療の需要、各地の受け入れ状況についての説明が行われました。

次に2年目研修医の青柳医師が松島海岸診療所での支援の様子について報告が行われました。被害のあった施設などの見学、地域の組合員さんの安否確認訪問、診療所の整理作業を行ったことでそこで起きた状況とこれからどうしていくべきかを考え知ることができたとのことでした。

最後に県医療救護班として石巻地区に支援に参加した五十嵐会長の報告が行われました。石巻医療救護班活動は新潟県医療救護班として当院で1チームを構成し4月12日～14日の3日間の支援を行い、その内容は担当避難所を交代制で受け持つての診療の様子を写真とともに説明されました。

続いて、国土交通省の方から「新潟での地震・津波を想定して」をテーマにご講演いただきました。東日本大震災被害で最も大きな要因となった津波についてのメカニズムの説明から、東日本大震災の概要についての考察が行われ、併せて新潟県で想定される地震と津波についての見解の説明がありました。最後には津波防災への心構えとして「1秒でも速く逃げ始め、全速力で1cmでも高く避難する」ことが大事とまとめがなされました。途中、実際の津波の様子を交えながら臨場感のある講演となり、震災が起きた場合にどうするべきかを深く考えることのできた講演でした。

その後、沼垂診療所の関川医師よりこの間の新潟水俣病住民検診のまとめが報告され、第一部は終了となりました。

第二部では、6月より下越病院に帰任した外科の岩城医師と、今年度入職した1年目研修医の浅川医師、岩田医師よりそれぞれ挨拶と抱負が述べられました。また、職員の方からも次々と歓迎の言葉や期待の言葉が投げかけられるなど、終始なごやかな雰囲気で開催されました。

温泉で日頃の疲れを癒し、職員同士で大いに交流することで今後の活力となる良い機会となったのではないのでしょうか。



開会挨拶をする五十嵐新潟県民医連会長



# 8月末鉄骨組み上げ完了予定 上棟式9月4日

## 建設用地では

新病院の2階部分の鉄骨が組み上がり、現在は3・4階と5階の床になる部分の西側鉄骨組みが日を追うごとに工事が進行しています。8月末までに建物の6階すべてが建ち上げる予定です。

新病院建設運動にご協力ください

社員加入 増出資 受付中



写真8月2日撮影

病院裏側



病院表側

## 見学会のご案内

9月4日(日)午前11時15分から新病院建設地にて見学会を開催します。どなたでもご参加いただけます。

見学会当日の午前10時より、新津地域学園305号室にて第6回拡大建設委員会が行われます。

新病院の外壁の色を決定し、建設運動の交流、秋の組織強化月間と合わせた運動の飛躍をつくります。



## 新潟大学地域連携による緩和ケア研修会に参加

平成22年10月から新潟大学が主体となり、専門分野の研修を行うことを目的に大学病院と関連医療機関が連携テレビ会議システムを行っています。

緩和ケアチームでは、新潟大学病院発信の連携テレビ会議システムに、5月から月2回の緩和ケア研修会に参加しました。チームメンバーのほか毎回5～6名の参加があります。がん性疼痛やその他の消化器症状、呼吸困難など身体的な症状コントロールについて事例検討を行い、症状アセスメント、問題点抽出、ケア目標立案、アプローチ方法を他施設との意見交換の中で



学ぶことができます。『患者にとって最善をかんがえる』ことを目的意識として持ち、今置かれている状況の中で何が出来るか患者の声に耳を傾けて心に寄り添っていきたいと思っています。苦痛を抱えている患者・家族に寄り添う医療者も一緒に悩み、苦しんでいます。そんな時には同じ志を持った仲間が存在が大きいと感じています。職種を問わず、ぜひ、一緒に学び語りの場を広げていきたいと考えています。



## 新潟水俣病住民検診

昨年取り組んだ新潟水俣病住民検診を今年も5月28日、6月25日と2回、下越病院で行いました。

2日間で27人が受診しました。検診の結果、全員が水俣病と診断され、水俣病被害者救済措置法に基づく給付申請の意向がありました。

今回の検診にあたり、今年卒業した2名の研修医が問診と診察を行いました。

その感想を掲載します。



### 岩田真弥医師

問診項目が詳細で驚きました。昭和電工に補償請求しにくい関係者もいるなど、社会的問題もあります。どこまで医者として踏み込み、患者さんに関わればよいか悩んでいます。



### 浅川友美医師

所見取りは大学の教科書通りにいかず大変。まだ新潟水俣病の患者さんがいたことに驚きました。新潟だからこそその貴重な経験もできました。



新入医師ご紹介

新しい医師を迎えました

6月から下越病院外科でお世話になっております岩城です。ここでは2ヶ月間研修に行った松阪市民病院緩和ケア病棟でのことを書かせて頂きます。

緩和ケア病棟は、治癒を目的とした医療を行う場所ではありません。その施設によって医療行為の多い少ないはかなり違うようですが、私が見てきたところは、生活の場であり、日常生活援助の場でした。病棟の理念が「静かに自身を見つめる場」で、それは患者さん、家族、そこで働くスタッフみんなが、自身を見つめざるを得ないところでした。そこでは一般病棟では当たり前に行っていることの意味をとことん考え、悩んでいました。それは点滴をすることであったり、点滴しないことであったり、鎮痛剤を増量することであったり、体が弱ってくるなかで起こってくる合併症の治療をどこまでやるのかであったり、その意味を考えていました。私も、終末期での医療行為の意味を考えさせられて、答えはなく、非常に悩ましく苦しい日々でした。医療とは何なのか？自分がどう死にたいのか？医療者におまかせではいけないと思いました。



岩城 孝和医師

えいようかだより

夏の食中毒対策 お弁当作りのポイント

- ★おかずは十分に加熱する。
- ★おにぎりを握るときには直接ご飯に触れずラップを利用する。
- ★おかずの汁気はよく切って詰める。お弁当に水分は大敵！  
水分が多いと細菌が増える恐れがある。
- ★作り置きのおかずをなるべく使わないようにする。  
使うときは冷蔵庫に保存してあるもののみ利用。
- ★冷凍野菜を保冷剤代わりにする。  
例「冷凍の枝豆」「あらかじめ茹でて冷凍したとうもろこし」などを解凍せずそのまま詰める。
- ★ごはん、おかずはよく冷ましてからフタをする。
- ★食材をバラやカップなどで仕切る。仕切りなしで詰めると接触面から腐敗が進むため。
- ★保冷剤を弁当箱の上や弁当袋の中に入れておく。



- ★梅干：食品の腐敗や食中毒の原因になる菌を抑える働きがある。
- ★お酢：酸は食中毒の原因の細菌の増加を抑える働きがある。
- ★生姜：細菌に対して抗菌作用がある。
- ★大葉：大葉の香りには抗菌・防腐作用がある。

\*\*\*\*\* 今月のレシピ \*\*\*\*\* 鶏肉 唐辛子焼 \*\*\*\*\*



材料(1人分)	150kcal	塩分0.7	作り方
♪鶏もも肉	30g × 2切れ		1. 鶏肉はニンニク・唐辛子・長ネギ・酒に30分漬け込む。
♪おろしニンニク	少々		2. フライパンを熱しサラダ油を入れ、鶏肉の両面を焼き火を通す。
♪唐辛子小口切り	少々		3. 砂糖・醤油・ケチャップを合わせ鶏肉にからめる。
♪長ネギ小口切り	5g		4. ベビーリーフ・プチトマトを添える。
♪ベビーリーフ	10g		
♪プチトマト	2個		
酒小さじ1 * サラダ油小さじ1 * 砂糖			
小さじ1/4 * 醤油小さじ1/2 * ケ			
チャップ大さじ1/2			